

会議名 (審議会等名)		平成24年度 第2回 川西市産業ビジョン推進委員会	
事務局 (担当課)		市民生活部 商工農林労政課 内線(2543)	
開催日時		平成24年7月26日(木) 15時01分~16時54分	
開催場所		パレットかわにし ワーキングルームA・B	
出席者	委員	佐々木 保幸(委員長) 川口 星美、上野 和信、大智 靖志 西田 佐智夫、福本 昭夫、藪内 玲子、 木原 恵美子 (欠席者) 深田 政宏	
	その他		
	事務局	大森 直之(市民生活部長)、大屋敷 信彦(地域活性室長)、 中西 成明(商工農林労政課長)、人見 巖	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	(1) 課題整理のためのヒアリング結果について (2) 産業振興に向けた取り組みについて (3) 産業ビジョン重点施策について (4) その他		
会議結果	会議録のとおり		

審 議 経 過

(事務局)

それでは、定刻となりましたので、平成24年度第2回川西市産業ビジョン推進委員会を開催いたします。

まず、本日の委員会につきましては、委員9名中8名の出席で、過半数を超えておりますので、本会が成立していることをご報告申し上げます。なお、本日ご欠席の深田商工会長の代わりに、オブザーバーとして川西市商工会事務局長の福井様にご出席いただいております。

それでは、これより佐々木委員長に議事進行を務めていただきますので、よろしくお願いいたします。

(委員長)

<開会あいさつ>

それでは、早速、本日の議事に移りたいと思います。次第に従いまして、進めてまいります。

まず、議題(1)課題整理のためのヒアリング結果について、事務局より説明を願います。

(事務局)

<議題(1)説明>

(委員長)

事務局から、課題整理のためのヒアリング結果についてのご説明がありました。質問と言ったらどうかと思いますが、これは全体的にご覧いただきまして、ちょっと補足的に説明がほしいところとか、あるいは、こういうことも意見として出ていないけどもちょっと申したいというような点とか、いろいろな角度からご意見ございませんでしょうか。

(委員)ナンバー24とか27は商工会で話し合ったときは確か、準工業地域と全部「準」がついているけど、工業地域という話やったと思うんですけど、工業地域への住宅進出を行政の規制や指導により歯止めがかけられないかと私は記憶しているんです。

23、19も全部準工業地域と書き換えられている。もちろん準工業地域もあるけども、工業地域の話ですが。

(事務局)

すいません。そしたら修正させていただきますけども、準工業及び工業地域ということでよろしいんでしょうか。

(委員)

ただ、24の場合やったら当然誰が考えても準工業地域で行政の規制をかけるのは難しいなと思われと思いますよ。ですから、24なんかは工業地域だけの方がいいと思います。

それから、商工会に来ていただいたときに、いろいろ住工混在の問題が出て、あのときには工業地域であっても、住宅の進出には指導もできないしなかなか抑えられないというお話やったんですけども、インターネットで工業地域・住宅開発と入れただけで結構全国的にはいろんな指導要綱であったり、行政の指導指針であったりというのを

くっているみたいですね。

例えば、相模原市なんかやったら住宅開発のうちの3分の1が工業地域と接する場合は開発側が緩衝地帯をつくって住宅を開発するとか、或いは、八千代市なんかでも工業地域に住宅を開発する場合には事前に協議が必要だとか、そういう大きな市だけではなくても町であっても、良好な市街地の形成に資するための町長が許可をするとか、100メートル以内の工場の同意を得るように努めるとか、或いは、公害対策は住宅開発側がするとか、結構、全国的にいうといろんな要綱とか指導指針というのがあるみたいですけどね。だから、全く何もできないということでもないと思うんですけどね。

(事務局)

計画に整理して記載させていただくようにいたします。

(委員長)

今のご意見は2点あったと思います。一つは、準工業地域と工業地域をきちっと踏まえていただいて、これは後々残りますので修正をお願いしたいと思います。

それから2点目は、そこからビジョンに結び付けていくご意見でした。そのあたりの住工混在の問題に対して、非常にアプローチが難しいということですけども、今他市の条例要綱等々をご紹介いただきましたのでちょっとこれから急ぎ足になるうかと思いますが、他市の状況等も押さえていただきまして、これを我々がこれからビジョンに反映できるかどうか、そこを踏まえてご検討をお願いしたいと思います。

(委員)

32番ですが、「農業関係者は市民に安心安全で新鮮な農産物を届けるつもりはなく、金もうけのためにやっている。」ちょっと露骨すぎて、この安心安全で新鮮な農産物は届けることはJAもそう言ってやかましく言っているし、我々生産者も全くそのとおりだと思っておりますが、これは全く届けるつもりはなく、そんなことはありません。

(委員)

金儲けのためにも市民が安全で安心に農家が届けていたけたら、それが回っていきますので、金儲けにも経済的にも潤いますので、こちらの力点が入るように考えていただいた方が市民としても有難いと思います。

(委員)

それから、34番の公設市場がないのでJAと協力してというのはどういう意味なんですか。どこで出てきた言葉ですか。

(事務局)

これは言われたままのことをここに掲載させてもらっているんですが、農業委員会の場で。

これはあくまで農業委員会の総意の意見としてではなく個人の意見として聞いているわけではございませんで、割とざっくりばらんにお聞きしたので、言葉にしてしまうと本人さんが言われた意図とちょっと違うかもしれませんが、単語にしてしまうとこういうストレートな

言葉になってしまうだけで、我々としても流れの中でお聞きしているんですけども。

(委員)

市場ではなくて、直売所という意味で川西市では黒川入れて四つあるんですけども、意外に各農家が軒先というか道端でやっている直売所はかなりあって、そういうことを言われたんではないかなという気がしているんですけども。

(委員)

これは文書で残されるんですか。

(事務局)

今日は委員会なので、お聞きしたことをそのままお出ししております。これをそのまま外へ出すわけではございませんので、ちょっと生々しいかと思いましたが、実際に事業者さんがどういうお声を出されているのかというのを、我々としても作為をもってきれいにするのではなくて、そのまま出させてもらった方がいるんなお考えがわかるのかなということで今回は資料提要させてもらっています。

これをいかに整理させていただいて、このビジョンの中とか考え方や展開に使えるものがあるのかどうかということも含めて、そういう意味ではこういうことをもっとやった方がいいんじゃないとか、この意見を是非とも採用すべきだとかという中で、委員の皆さんの方で検討いただけるのかなということで、次のお話させていただく中の一つの材料にさせていただいたらというふうに思っておりますので、これをこのまま資料の裏につけるとかそういうことではございませんので。

(委員)

それから、39番もね、「青年営農者の取り組みや市民農園が育ってきているところの新しい取り組みをビジョンに入れてほしい。」というところですが、育てる必要はあるけども、育ててはきていないんです。育てる必要性はあるということです。

それから、43番の「市民農園が盛んになって野菜等が出回ると直売所の売り上げに影響がある。」と言っておられたのは覚えてるわ。けど、これはあんまり気にしてもらう必要はないと思うけど。

(事務局)

我々も全てをビジョンに入れるということではなくて、取捨選択はさせていただきますけども、今回、委員の皆さん方からこういう意見があったということはまず知っておいていただきたい。正直、全部飲み込んで書くとなりますとアンバランスなものになってしまいますので。

(委員)

それで、市民農園でつくったものは売ることはいけませんね。

(事務局)

そういう理解の中で、例えば、一般の市民さんがつくったものを市

民農園の中で売ったらいいという議論があったら、それはできないですよという議論がありますので、やっぱりそこは分けて考えさせていただきたいと思います。

(委員)

改めて市民さんに周知してあげていただきたいと思いますね。私は地産地消という活動をしているんですけども、その中で市民さんが作られたものを直売所の片隅に置かせてもらって一緒に売れていくという状況も聞いておりますので、誰がそんな作り方をしたんかということを知れば教えてもらえるけど、聞かなかつたらわからないということがありますので、小さな直売所だからこそできることなんですけども、でも本当に店主さんの信用だけで成り立っていますので、よそから来てがばっと持って行かれる方も多くなってきておりますので、川西市の顔を潰されてしまうことにもなりかねませんので。

(事務局)

その辺のところはちょうどビジョンと市民さんの活動の線のところだと思っておりますけども、一応生業としての農業として販売する場合と自家消費される場合の線引きですね、その線引きという中で市民農園の位置づけというのがありますし、それを一歩踏み込んだ施策をするかどうかということからこれからビジョンの中で取り組んだ方がいいのか、それはどうやということ議論していただければと思いますが、今の直売所の話なんかは、産業ではなくて生活の潤いの部分であろうかと思っておりますし、それから業に踏み込んだ場合は、やっぱり販売ということになるといろんな差し障りが出てくるというところをまた皆さんに議論いただくということで、そういう意味での表現というのはできるかなと思っておりますので。

(委員)

今農業振興研究会の方で積極的に取り組んで、農地の耕作放棄地の解消をしないといけないということで、農業経営基盤強化促進法という法律があるんですが、それを基にして川西に農地を有効に誰もが活用できる方法が今全くないので今商工農林労政課の方で、今その法律を基にして川西の農業のもとになるものを考えてもらっています。これを早く仕上げてもらいたい。そしたら、この市民農園とかつくったやつかて売ることができるんです。誰もが農業に従事するようになっていくんです。これを川西がやるということでJAの方も総代会で川西と西宮としておりますので是非お願いしたい。

(委員長)

では、ご関係の方々もおられますので、文言や表現というのは自分たちが発言した意図と違うというような点でお気づきのことがありますたら、また事務局の方に申し出てほしいと思います。

それで、先ほどの32番ですけども、これは資料から削除ということではよろしいでしょうか。

(「結構です」の声あり)

(委員長)

32番については削除をお願いします。

それでは、いろいろご意見をお聞きしておりますと、ビジョンの身に近づいてまいりましたので、ここから(2)(3)の方に移らせていただきまして、資料の(2)(3)の産業振興に向けた取り組みと産業ビジョン重点施策について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

<議題(2)及び(3)説明>

(委員長)

ありがとうございます。

今申されましたように、これがもう出来上がったものではなく、これを叩き台にしながら、これはむしろ少し違うんじゃないかといったようなところでいろいろなご意見をいただきながらグレードアップしていただきたいと思っておりますので、ここから委員の皆さまのご意見等をお聞きしたいと思います。

(委員)

都市近郊農業の振興ということで三つの項目が上がっている中で、特に消費者と農業者のつながりというのが、特に顔の見える農産物を消費者の方が買われるということが主流になっていると思います。

それで、私も、南部直売所の部長をさせていただいているわけですが、やはり消費者の求められるものというのは特に安心・安全で新鮮な農産物をほしいということと、それと我々も消費者にいろんなものを食べてもらうということで変わった新しくできた野菜を自分自身もやっているわけです。

しかし、私自身も食べ方というものがわからないということがあるんです。例えば、セロリー一つとっても、きんぴらとか生で食べるとかいろんな食べ方ができるわけですが、変わったセロリーを出荷するときに、「このセロリーはどうやって食べるんですか」というご意見も聞くということで、ちょうど今年5月でしたか、木原さんの方に我々の採れたトマト、じゃがいもでそういう料理をして消費者との交流を図っていただいたというようなことがあります。

今後、直売所を盛り上げるためには、特に生活学校グループとか、そういうところと我々自身も提携してつくったものを消費者にいかにおいしく食べてもらうかを考えるのに、どんな料理方法とかレシピがあるのかというのを今後進めていきたい。

それによって、川西市民も川西ではこういう農産物がとれて、こういう食べ方があるんだなというのも一つ、直売所とか、商店会に並んで、こういう食べ方があるんなら買ってみようかということで、お互いにたぶん商店会の農産物を買っておられる方もまた一つPRになるので、そういうところを盛り上げる意味でもやっていきたいと思えます。

特に都市近郊型農業というのは、大消費地があるのでそれをいかに生かすかということがあるので、例えば、先ほどの最初の1号議案に出ていたように、公設市場がないから市場を作ってほしいという意見もあったんですが、それではなくて、今の農業というのは自分でつくったものをいかに自分でPRして売るかということが大事だと考えております。

私もいろんな直売所とかの役員もさせてもらっていますので、やは

り消費者から聞くことは新鮮で安全で新しい農産物を提供されるのがうれしいというご意見をいろんな方面から聞いておりますので、川西にもいろんな直売所があるわけなんで、やはり消費者と生産者の交流というものをもっと深めていけたらと思います。

例えば、青年部の方で水曜朝市もされていますけども、若い青年部の方がつくったということで消費者が来られますので、それも消費者の方が元気アップということも盛り上げていけば、この後継者もできると思います。

また、北部と南部の違いというのは、気候が違うのと作っている農作物も違うので、たぶん後継者というのは北部の方が問題で、特に川西地区においては、私が知っている中でも20代、30代でも農業をされているのはやはり都市型で物が売れるということもあると思うんですよ。

ですから、そういう後継者不足を考えていくうえで、今後、農業者と川西市民との交流の場をもうちょっともっていただくというのが、5年前から商工会とJAの協力で川西まつりもやっておりますけども、それも消費者と我々生産者の交流の場にそういうような感じでつながりができていると思うんで、やはりこの川西まつりも今年で第6回を迎えるわけですから、そういうものももうちょっと活発にしていってやはり川西の産業を盛り上げていく方が、その後の川西全体のことも考えればそういうことがいいんじゃないかと思います。

(委員)

重点取り組みの3ですけども、人が集い賑わいのあるまちづくりをめざしますということですけども、私のところは2番目の各商店会が取り組むイベントの支援ということで、多田の商業会が盆踊りとかするときは、ちょうどコミュニティ会館も近くですので、一緒にお店を出したり、また、コミュニティの文化祭のときに野菜を皆さんに売っていただいてもものすごく助かっているんです。

だから、それが順番になってきたら、また今後の文化祭にもそういう野菜を売られるんだなということで新しい野菜も売っていただくので、ちょうど多田東の方はマンションや農家の方もいらっしゃるけど人数が多いので、賑わいがすごくあるので、多田の商業会は順番に協力をし合っています。

やはり、コミュニティといたら各自治会がよってきますので、その点を巻き込んでされた方がいいと思います。

(委員)

今の意見ですけどね、11月11日が川西まつりで、11月の25日が東谷の方でコミュニティの関係でイベントがあるらしいです。

それで、5万円分の野菜を調達してくれと言われて受けています。受けたのはいいけど、どこで調達しようかとこれからです。

今何が言いたいかと言えば、この中にも出ているように、市民と川西の農産物を欲しがっておられる市民の方が非常に多くなってきたということが、木原さんなんかの努力もあるんですけども、これを一つ市民の交流というか、ずっと広げていってもらえば、よい産業ビジョンになるんじゃないかなと。商業でも、東谷の方でこの前上政さんでしたか、店舗が少なくて今一件だけで具合悪いんやと、そこへ農産物なんか巻き込んでやるとか。

それから、今度9月ですか、正式には固まっていないようですか、それもやってもらおうとか、非常にいい具合に進んで行っているように思うんですけども、これも組織だってまとめてやってもらえれば非常にいいんじゃないかと思います。

(委員)

私は三つの意見がありまして、一つは重点取り組み1の1-2の空き店舗の活用というのがありますが、市民の声としたら、坂の上からバスに乗って行くのはいいけども、荷物持って帰るのがなかなか移動業者がほしいのという企業を引っ張ってきてほしいとか、大きな店舗が来た時に小さな店舗がどんどん消えてしまっていて、大きな地区の中に食料品なりが買いに行けるところがどこにもない。だから中央に出ていくしかない。だから市民中心型の起業家に興してもらったり、考えてもらったりしてほしいということが一つ私たち生活学校のアンケートの中には出てきております。

二つ目が、2-3の農地の保全というのが、シカやアライグマやタヌキなんかいっぱいやってほしいと思うけれども、そのやっつけたあとはただの肉の塊で捨ててしまうなり、燃やしてしまうなり、そしたら、今高齢者の方がとても多くなって、食事を業者の方ががんばっておられる。それで、シカ肉というのはとてもカロリーが低くて、それでいてタンパク質や栄養化がとても高いもので、老人の方にとってはとてもベターなもので、フランスではとても高級で牛肉の何倍もする。それを捨ててしまうよりもこれを活用して特産品とする。

そういう考え方を産業ビジョンの中で、最初から駆除という方向ではなく、それを活用していく、特産品として川西ならではの活用の仕方というものを考えてほしいなと思っています。

それから三つ目が、3-1の各商店会が取り組むイベントの支援の中の観光という部分に光が当たっていない。観光という部分では今源氏というところばかり光が当たっているけども、川西市には緑がいっぱいあるし、空いているからこそ空地があって、空いた建物もある。そこで、アニメやらコスプレの会場をすごく欲しがっている方がおられて、大阪や尼崎なんかの廃病院や廃工場とかそういうところを何万円も出して借りておられるんですね。

そしたら、川西もそういう人たちに川西のこんな部分もあるんですよと、こういう素敵な風景もあるんですよという発信ができたなら、ただあるだけでお金を儲けられる。それを観光課として発信できたとしたら、業者さんなんかでしたら、古い建物を壊したいけどもお金がないからほったらかし、だったらそのほったらかしの部分がお金を生むんであったら、人が来る。お金が落ちる。そして、お金が落ちたら周りが回収することができる。今あるものを今ある形でお金を儲けられるというバックアップの仕方も考えてあげてほしいなと。

観光という、川西の中の良い、これは素晴らしいとみんなが思う目線でバックアップするのも一つですけども、オタクの方が日本全国ですごく増えているので、そういう人たちに向かって発信するというのも一つかなと思って三つ意見を言わせてもらいました。

(委員)

1-2の市行政の中の市融資制度というのは今ありますか。

(事務局)

金額がそんなに大きくないですけども、1000万円とか、1500万円とか、場合によっては2000万円とか、融資制度はありますので。

(委員)

あるんやったら、今池田泉州銀行との連携協定も今あるし、これから5年かけてする内容ではないと思います。

(事務局)

池田泉州銀行については、まだまだこれから調整事項ということになりますし、どこまで協定書の中でやっていただけるのかというのは不透明なところがあります。

それと、融資についてはオプションがいっぱいあった方がいいのかなというふうに我々思いますし、例えば市の融資制度は県の信用保証協会の保証がついておりますので、銀行さんとしては非常に貸付がしやすい。

それから、リーマンショック以降、国の方の制度で緊急保証制度ということで非常に借りやすい制度が今あるんですが、これも間もなく終わるだろうと言われております。

それで、いろんなオプションを持っておかないと、やはり中小事業者は非常に資金力が弱いということがある中で、国の制度があるからいいやんとか、池田泉州銀行さんがあるからいいやんということで辞めてしまうと、次に制度として立ち上げにくいということがありますので、オプションとしては我々としてはたくさん持っておくと。ちょっとでも道が開げられるようにということで、結構銀行さんは断られたりしますので。

それで、市の融資制度も保証協会とお話ししながら変えていくことも、新しい制度も起こしていくこともできますので、その点どうなのがいいのか、逆にこういう機会にですね、特に工業系のところは意外に相談がなかったりしますので、是非ともご利用いただけたらなと思っています。

(委員)

1-1の の起業家の養成とありますが、起業を目指す人へのアドバイスや支援をすることに対して、起業する場合はどういったところにきちっとご相談ができるのかということをつくって差し上げないと、若い人は興すことで一生懸命で金融関係だとか、広報関係だとか、非常に困っておられるんですね。

そういったことを支援するためには、どういうふうに支援体制をとるかという具体的なことをつくってあげると起業しやすいんじゃないかと。

先ほど、委員さんがおっしゃられたように、金融機関はいろいろありますけども、ほとんどの方が手に取るように具体的にわからない。わからない上に銀行はもちろんプロパーなんで貸しません。ましてや起業で初めて興される方なんかはとても高いハードルがありますので、その当たりを本当に川西市の将来を見据えて考えるのであれば、若い世代の人たちが起業をしやすい。ただただ支援という言葉だけではなくて具体的にやってあげられるような施策が必要なんではないかなと思います。

ただ、銀行さんや市であるという窓口だけの一辺倒なことではなくて、アドバイザーを取り入れるとか、またその当たりも取り入れて考えていただけたらと思います。

(委員長)

先ほどの商工の和菓子屋さんとかと提携していきたいという中で、我々農産物をつくっていても市場に出荷できるものもあれば、出荷できないものも天候によってはできますので、特に川西の特産であるもも、いちじく、くりを三つの果樹を取り上げてみますと、その中でもいちじくは、天気が良ければ色の赤い良い身ができるんですけども、二日三日雨が続きますとほとんど市場に出荷できないような商品にならないようないちじくができるんですね。

特にその時は味も糖度も落ちますし、色も悪いので市場に出しても二束三文という風な状態なんで、川西では朝露いちじくワインがまず最初にできて、そのあと、上政さんのような菓子組合との提携でいちじくを使ったスイーツとか和菓子をつくっていただいているわけですが、やはり今後お互いに農業も収益が上がり、和菓子屋さんも地元で採れた農産物を使った、和菓子には限らないが外食産業をもうちょっと考えてみたらどうかなど。

そうなれば、川西に観光できたら、ここには全国にないこういうものが売っているということになれば、やはり川西の消費も増えるし、また、川西からよそへ出ていく手土産を持っていくのでもこれを持っていくということも考えられるし、農業と商業関係のそういう外食産業の農業者は特に今後力を合わせてやっていくのが、私自身が今後お互いに川西を守る意味ではいいんじゃないかと思っています。

今後のことを考えると、商業も農業も一緒に考えていけば本当の川西市の発展になるんじゃないかなど。例えば、工業の方も開発していただければ、私たちはほとんど手作業で仕事をしますので、こういう変わった機械ができましたと提供してもらえたら、農業は特に重労働なんで腰を痛めたりするということもあるので、もっと川西全体の産業が一致団結して、大きい話にはなるんですけど、そういう産業ビジョンを出していただいて、そういうことをふと思うようになってきたんで。

こういう農業でできたものをまた他の農業地域でもPRできると思うんで、そういう感じでお互いに協力していくことが私は今後の川西にとってはいいことだと思っています。

(委員)

今言われたように、特産品とかいろいろあるんですけども、特産品を加工するとか加工しないということで、今菓子組合ではいちじくを加工しているんなものをつくっているんですけども、それを飲食の方や他の分野の方も地元のものを使って、せっかくきんたくんバルをするんだから、その時期に応じた野菜や果物がありますが、それをきんたくんバルをいろいろ飲食の方にも使うとか、そういうことで市民全員が自分のところのものを何か盛り上げていこうという気がなければ、たぶん私らや農家の人が一生懸命にやっても結局最終的には絵に描いた餅みたいになって、どうしても広がっていかない。

結局、市民を巻き込むというのが結構下手だと思うんですよ。実際に言われておったコミュニティの野菜をなんぼか分けてくれという

話も、もともと秋の文化祭というのは東谷のコミュニティもJAとコミュニティが一緒にやっていたんですね。実際、野菜も売り、文化祭もやりということで結構盛り上がっていたんですね。

それが、結局JAさんの方が、今まで東谷のJAや川西のJAと別々だったのが、一つのものになってしまったから、川西まつりがあるから協力できないわという状態になってしまって野菜も集められなかったんですね。それで野菜が集められなかったら、人も集められないということで、結構、コミュニティに関しても人を集めるのに苦労されているんですね。

それがやっぱり野菜がどこかで欲しいからということで、声かけられたと思うんです。やっぱりそういうことでみんなが協力しないと街も盛り上がりがないと思うんですよね。

特に、川西というのはイベントしても必死になって人を集めないと皆さん無関心の方が多いですから、私らも市民に対するアピールが下手というか、だからいちじくに対して加工するのをはじめてもう10年経つんですよ。

10年経ってやっとのことで認知されてきたような形なんで、この間も食育の話で、川西市で農作物で有名なのはいちじくがあって、ゴマがあって、その次にトマトがあったんですね。私ら全然知らないんですよ、川西でトマトがそこそこ採れるというのを。

やっぱりそういうことで全てのことにアピールするのが下手というか、結局そういうことで盛り上がりがないと思うんですよ。そういうことを私ら商売人とか、作る人がマスコミなんかを利用して、そういうことをアピールしないといけないと思うんですよね。

結構、隣の伊丹市なんかは作ったらすぐに新聞に載っているんですね。いろんなことがわかるわけですけども。そういうのが川西市は下手というのか、私らもそういう部類に入っているわけですけどね。やっぱりそういう部分を努力していかないといけないと思うんですけどね。

(委員)

ちょっと今お話を伺っていて思ったんですけども、商業にしる、工業にしる、農業にしる、ビジョンを策定しようとしているけど、ビジョンが持ちにくい。どういうふうにしたらうまくいくかを描きにくい時代にいる中でビジョンを描こうとしているのに、ジレンマがある。どうすればいいのか答えがない。答えがないのに、答えをつくらうとしている。

そういう中で、こういうことが大事なんじゃないかということをおもったんですが、これから川西市で商業、工業、農業をやっていると思う人が集まって交流の場をつくって対話をする。本音で対話をする。我々は一体どうしたらいいのかと。本音の対話をして生まれてくる答えに期待する。その答えをビジョンにする。

時代があまりにもグローバルになって、あまりにも広域な経済になっているから、過去の成功体験から将来こうなるということができない。これはここで集まったからできないのではなくて、かなり立派な方々集まっても難しいのかもしれないね。だから、一番大切なことは、何かから生み出されるものに期待する。

(委員)

この会議の中に持ってくるまでの段階でコミュニケーションがと

れる、それぞれの産業を担うリーダー格があって、そういうことが上がってきて、策定ができる状態になっていったらいいんですけども、今、世界自体が方向を見失っている時代ですから、川西市にビジョンをつくれということ自体が非常に難しいことだと思うんです。

ただ話し合っていく中で必ずしも出ないわけではなくて、少しずつひも解いていくのかなというふうに私は期待をしているわけですけども、先ほどから私もものをつくる方の人間なので、そんなにたくさんあるんやったらもうちょっと宣伝してよと。私たちは大手の間屋からとって高いものを仕入れて、いいものをつくっていこうとしているんですけども、こんなに近くにたくさんあるのに何も耳にも入ってこないし、目にも入ってこないという状況を手短かに市民にわかるようにしていっただけとうれしいなと思います。

(委員)

市民の方もどこで地元のもの売っているのかというのがわからないですね。2年程前に地産地消の料理をみんなに食べていただくと思って緑提灯を探したんです。緑提灯というのは地産地消の食材を使っていますというのを売りにしている場所なんですけども、川西以外阪神7市全部あったんです。でも、川西市には一件もなかったんです。では、川西市ではそんなことをやっている業者はないのかと言ったらやっているんですけど、緑提灯というのを上げるということを知らない。

だから、地元でやっていて、地元のもの食べられる場所というのをどこかにないと言われてもないと言うのはすごくもったいないことです。川西市ではなく宝塚や伊丹や池田へ運んでいくのがすごくもったいないなと思いつつ、よそへ運んで行かないで川西の中へ運んでいけば、川西の宣伝になるし、川西にお金が落ちるし、そしたら、わざわざお金を使ってよそへ連れて行くより会議の流れで飲みに行こうと。そのまんま車を動かさないで連れて行ける方がどれだけありがたいかと思うんですよね。

私が所属している生活学校連合会というのは、阪神7市の消費者協会の役割も担っているんです。他市へ行ったときはこれでもかとはばかりに自分のところの市の宣伝、産業・商業・工業・観光、これぐらいパンフレットをもらうんです。行くたびにもらってきて川西へ来ていただいたときにあまり出せるものがなかったんです。だから出せるものでも、うちの会長も頭を下げていろんな資料を持ってきてくださって渡したんですけど、一番多かったところが、こんな立つぐらいの袋に入れた資料を渡されたんですけど、私のところは資料に挟んでさせていただいたところの差というのは自分のところの市をどれだけ他市へアピールして、ここへ来いというアピールを業者さんも行政もないのかなと。それだけ自信がないのかなと思ってしまいます。

市民へ伝えることで、市民もやっぱり自分の市を知らない。こんないいところがあるのかと。施策のことで聞かれたことがあるけどもご存じなかった。市民が市民のことを知らなかったら大阪府川西市民になってしまいますので、兵庫県川西市の川西市民になっていただくのが、この産業ビジョンとしてこの市を広めていくとしたら一番良い直結することですので、市民にまず知らせる方法を考えていただきたいなと思います。

(委員長)

それでは、一旦整理させていただきます。

最初のご意見ですが、皆さま方が最終的に共通していたのが、結局それぞれの産業ごとが個々独立に振興されるのではなくて、それらを結びつけた仕組みが必要だと、これが共通項だったと思います。

その点で言いますと、実は平成19年9月の前の委員会ですけども今後の川西市産業ビジョンの推進についての提言の中で挙げました大きな2番と3番の中で「市民参加の実践組織づくり」と「個別事業および組織に対する全体的な連携・協同の仕組みづくり」というものがありました。この方向性というのが今回お出しいただいている重点取り組みの中に反映されていないという弱点が私自身も大きく感じています。

この提言で挙げたそれぞれの産業で独自で努力されて、独自に振興に向けて取り組まれている様々な中身というものをうまく融合させる。いかに結び付ける。それが今求められているんじゃないかと思えます。

結局、産業を振興していくことが本当に難しい時代ですけども、結局はその中で既存の様々な取り組みをいかに有機的に連携させていくということが必要なのかと。

恐らく全員の委員の方々が今求められた意見だったかと思えますので、これはやっぱりビジョンの中で入れないと全く各委員の意見の一番重点的な部分が反映されませんので、ちょっと難しいお仕事になるかもしれませんが、次回までに重点分野の1～3に至る中で全員からお出しいただいた今の点をどうはめ込んで、どう反映させていけるのかという点について整理させていただきますようお願いいたします。

続いて、いただきました意見の2点目といたしましては、事務局自身も申されていたんですけども、観光という点が少し重点の1～3においても他分野に比べるといささか弱いという感がございます。やはり川西市の地域資源として観光の要素を強く持っておりますので、もう一踏込み観光という視点を入れていただきたい。これが2点目のご意見だったと思います。

続いて、三つ目が、現在存在している既存の市の施策としてはかなり当てはめられているんですけども、これから5年、10年を見据えて市がどういう施策を新たに打ち出すのかという点がこのビジョンの重点施策のこの表の中から見えてこないという意見であったかと思えます。

その当たりを既存の施策を整理するだけではなくて、市としてこれから5年、10年を見据えて何を新たに打ち出していくのかということが盛り込まれてないと、新たな産業ビジョンにはなっていないということにもなりかねないので、その点の検討も必要なんではないかと思えます。

続いて、4点目はいろいろ具体的な部分、抽象的な部分をこの表の中で書かれているんですけど、もう1回見ていただいて、結局、抽象的な記述で終わらせていい部分ともう少し具体的に踏み込んで書いた方がいい領域というのがございますので、次回、いろいろ整理されるというお話でしたので、その点も少し観点として採り入れていただいて、抽象的に留めてしかるべき部分、そしてより具体的に踏み込んでビジョンとして提言していく部分、その当たりを少し整理してご提示いただければと思います。

以上がたくさんお出しいただいたんですけども、少し共通して抽出できる部分かと思えます。

それでは、私の方からもせっかくなんでいくつか、質問というか、ご意見を出させていたきたいと思うんですけども、これからの施策としてどうするのかということとも関わるんですけども、まず1点目としては補助とか、助成という言葉がほとんどございませんので、それが必要かどうかというところは非常に難しいところです。

本市の公開事業レビューでもどんどんそこをカットしている状況なんですけども、それはそれとして、産業施策として無駄な助成制度、補助制度はそれはカットしていくべきですけども、新たな施策を打っていく以上、必要である助成制度、補助制度というのも出てくるかとも思えます。

これがこの表の中で、市としてどのように考えられて新たにつくっていくのであれば、どこにどういう補助が入ってくるのかという辺りも必要なんじゃないかと思えます。

1-1の社会起業家のところでは、既存の補助制度や空き店舗の活用などとありますので、ここで補助制度という言葉が出てきますけども、これもやはり既存のという言葉がついておりますので、市として本当に社会起業家を育てたいと考えらえるのであれば、ビジョンの中の重点施策としてわざわざとして出されるのであれば、やっぱり社会起業家に対して、なぜ他では融資制度に留められているのに、社会起業家に対してはなぜ補助を市として設ける必要があるのかという辺りの理念的な部分であるとか、そこも問われてきますので、これを言い出すと社会起業家を柱としてあげるのかどうかというそもそも論にまで関わってくるんですけども、そこへの補助の是非、それとまた社会起業家に留まらず、市として何らかの補助制度や助成制度をいかに実現できるのかという辺りが私自身も必要ではないかと思えます。これが一つ目です。

続いて、2点目は、重点取り組み2のところ、ここがちょっとわかるようなわかかならないようななかなか難しいところです。

まず、2-1が地域住民が集うコミュニティ空間としての商店会等の活用で、これも少しやが出てこないとなかなか中身が見えてこない部分がありますので、ここをどう膨らませて今後提示していただけるのが一つです。

続いて、2-2の企業の社会貢献活動に対する支援ですけども、この企業の社会貢献活動をCSRという形に置き換えると、企業のCSR活動というのは非常に幅広いので、これをだけに集約してしまうとちょっと、ここで言われる地域貢献の中身が非常にわい小化されるというか、非常に小さな中身になってしまいますので、2-2の企業の社会貢献活動という部分をどれだけ捉えられて産業ビジョンとして出されるのかという点が次回必要になってくるのではないかと思います。

あとは、これは私の個人的な意見というか、考えなんですけども、重点取り組みの1で1-1と1-2が挙がっていますけども、やっぱり産業の育成とか振興を図っていくためには、市が継続して市の産業がどういう状況なのかということ継続して調査して実態把握していく必要がありますので、これはなかなかビジョンの中でこれまでも盛り込まれても来ていませんけども、今他市を見ていても、この点というのが今問われておまして、結局いろんなビジョンを描くだけで

はなく現状把握を定期的きちっとしていく。それに基づいて、ビジョンに基づきながらも具体的な施策も柔軟な修正が求められている時代ですので、そういうのを書き込むかどうか。定期的な市内産業に関する調査研究というのがビジョンとして必要かどうか。これに基づいて、一番目に申しましたような様々な市が支える助成的な部分という辺り、これはまたご議論をいただけたらと思います。

あとちょっと細かい質問も含めてですけども、意見としては今申したとおりでございます。細かい質問とあと最終的にビジョンをまとめられるところの文言調整にも関わるんですが、1-2の商店会等における空き店舗の活用ですが、「商店会等における」というのを付けておいていいのかどうか。例えば、それ以外の空き店舗というのもあると思いますし、もうちょっと幅を広げておかないと、例えば、NPOがされるような取り組みに対してビジョンとしてもうちょっと汎用性をもうちょっと広げておく必要があると思いますので、この文言の意味するところが非常に強調してあるのであれば、このままでいいと思いますけども、少しその辺りの幅の広さというものを出せるときにこの文言をどうするかということが考えないといけないところかと思えます。

同じく、2-1も地域住民が集うコミュニティ空間としての商店会等の活用で、「等」で幅が広がるんですけども、これも商店会と言明してしまうとかなり幅が狭まりそうな気がしますので少し文言の方を考えていただければと思います。

同じことで重点取り組みの3の3-1の で各商店会が取り組むイベントの支援とありますので、これもNPOなんか非常に幅の広いイベントななどを街の賑わいをつくるために取り組まれるときに、この も少し幅を持たせる方がいいかと思えます。商店会等にされるかもうちょっと違う文言にされるかという部分が必要かと感じました。

最後に3-2の ですが、ここで農業・商業・観光の連携の点が出ているのは非常にいい点だと思います。特産品の開発とされていますので、これは先ほど申し上げました、今後の川西市産業ビジョンの推進についての提言のときには、地域ブランドづくりという形で打ち出しておりましたので、ここは特産品だけにされるのか、それとも前回の提言で示したような市全体として川西市の地域ブランドづくりというのを今後も継続して提言から受け継ぎながら、新しくビジョンの中でも出されていくのか、その辺りが検討が少し必要なんじゃないかと思えます。

ちょっといろいろと言い過ぎましたけど、私の方からは以上です。まだ、時間が少しありますので、他にご意見等があれば。

(委員)

長年これ先生とご一緒させていただきながら、この形と同じような疑問も何度となく出てきて、それに対して提言をさせていただいたのに、また同じ形で出てきているようなものとか、それから、具体的に少しも前に進んでいないということをかなり感じますので、是非ビジョンにあれば検証しながら次に進んでいくステップを挙げてほしい。

それで商工会の方々と市と我々とで何かをもう少し検証していけるようなことがあるのであれば、どこかで動いていただけるような具

体的な動きが出てくると、一生懸命お話してきたことが出てくるとうれしいなと、こんなふうに思います。

(委員)

特にこれから、北部の特に東谷に新名神のインターもできることで、それに対して周りの遠い人を引っ張るということになったら、やっぱり観光というのは大事になると思います。川西市に隠れた観光地なり、多田神社にしても、サイダーの発祥の地とか、北部にしても一庫ダムもありますし、黒川のいろんな資源もありますし、そういうことを踏まえて観光とかに力を入れるかということのを市の方が考えてもらう必要も出てきているんじゃないかなと思います。

(委員)

ちょっと外れるかもわかりませんが、川西市は今なんとなく全体的に元気がないですね。私なりに分析するとね。建設、土木とか、そういうのが元気がないように思います。

今新名神なんかで大きな工事があっちこっち入ってやっているわけですけども、市内の業者が全く入札で入っていない。地元のそういった活性化というか、元気が出るような施策が必要じゃないかと強く思います。

飲みに行っても、ほんまに気の毒なぐらい、ようお店やっているなという、閑古鳥が鳴いているようなお店が非常に多い。そういうところが元気が出てきたら必然的に元気が出てくると思うんですけど。

(委員長)

今の点は今回の重点施策で出していただいたこの表には入っていないご意見です。ヒアリングの項目でも出ております51番、52番或いは54番に関わりまして、市内の事業所さんを市としてどう育てるのか、維持していくのかという観点は今お出しいただいている件だと思います。

これは、いわゆる地域内経済循環という形で、地域内再投資という形で今注目を浴びているところでもございますので、その辺り、市の方でもご意見をいただけたらと思いますので、それをビジョンに入れるか入れないかというのはこの委員会で検討いただければと思いますので、本当にたくさん出していただきましたので、少し集約していただきまして、次回までにじっくり練っていただきましてご提案の方をよろしくお願いしたいと思います。

(委員)

また、農業の方に戻るんですけど、川西市は税金がむちゃくちゃ高いんです。特に南部の人なんか、農業だけでは農地の維持ができないような状況で、ほとんどの人が次に相続が発生したらこの田んぼを売るときめておられるような状況で、三大都市圏に川西市も入っておりまして、非常に固定資産税も宅地並み課税で維持できない状況をつくられてしまっており、市の単位でどうこうできないと思いますが、せめてこの産業ビジョンの中で高いところを理解してもらって、あらゆる機会を捉えて改善の方向に持っていくという文言を入れてもらえれば励みになるんじゃないかと思えます。

(委員長)

では、だいぶ時間が5時に近づいてまいりました。暑い最中ではありましたが、ありがとうございました。

最後4番目として、次回の委員会日程調整について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

いろいろとご議論いただきましてありがとうございました。いろいろな視点で、我々の整理としても抜け落ちていた部分とかいろいろと気づかせてもらいました。次回もまとめながらご議論願いたいと思っております。

<この場で次回の日程候補日を9月25日(火)午後3時として調整することで決定。>

(委員長)

それでは、長時間お疲れ様でした。

これをもちまして、閉会とさせていただきます。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。